源兼澄集

2156

源兼澄集

ヘ4
2156

スミ四十

藤野潔氏遺愛之記
明治四十一年四月廿四日
藤野潔氏寄贈
利へ門
2256

加賀寺

源兼澄

鎮守府將軍信孝、
陸奥守信明、

至寛和二年

拾遺二

後拾七　續後一

明倫堂

かららの家にて三月十日より
くらに人くるしまゐりた
まゐれとえてかへるとて院
にいへるとよめる
はなのちるはなつかしきこそ惜
はるかすみやよいくせ
さくらのはなみ山とはなをみよ
まさいと
ゆめのひとしれぬものか

くれのかなみかに代のたより
七月七日夜たなはたまつるかくの
ゑかきて水のかみしるしあるまた
人とあらむとつくまゐらせん
よろこひたまつる
君か代はいしめてこそあるらめ
あるしのかなみかにそらかせ
やりしひのけいきのたもし
ひとよめるいと

かり夫のしくほいまのこゝゑしみ
そおくゝ行めのゆくとて入る
林のうふつるはとひであさわ
うたくり
をしふきてもうつとまゐる
る花やかのわれゆくさ
あら人のむとめ乃りやくし
せうらこゝでかやのくほり
しとひしるも七月くうらて

ことにつけて
のまみえのぬはつもゆるかすゝ兆
たのめてとやうやこや
とけゆかりてちの逢し
あるゝのちるらうちりまて
きゝしみうのうこの
たほこたけゆきとけしてあやしつ
かれこ紅るゝまいやまれこ
うゝち濃いそしわのひばきる

とはなは

うしとらてきよめはつしもすゑもう

はるはたみちはしまぬつまでるね

四月十日よりくりにありかしとみ

一 人のうしにつみつめて五月廿日

とも御神もらそれのみし

みちらにいつきてめちよひて

しそうし

あわせるよのいられそうあし

うく神わや御神ひはかくて

よのうき人へせしめして

あるみうみたるかたしありつや

めふまたふしてきゆくとえて

一 うへうへのしあり

なき人のよのうはまるとひらつれて

せと曰かはしにはくうかき

四月十やまみちとまるかしに

わきうはのくるとうて

かしこは松むしこゑのあかぬゆふへ
うしろにして来かたのやまみち
まれに里の人かたいれをともし
ともし井のあかしにまかりて暮し
小かしこゑのもとにて
ゆふやけのしやたかしかしこは
ところ保ぬねしらぬあつしたる
見つこるまでめでふる京へ
ゆきかしきうらぬなをそせし

ゆふこるあはこらんはし
ゆきぬかしみかゆのさくらへかわれよと
こはあきのあれたかしゆへ紀を
きのひかりしとしかの未流まる
つにまかたりしはありところ
たつひ伝へしと人とおもいし
りかりしとありわれまで
我とおもい是と此ゆかりなりなし
つゝいわしへのあれらりせき

のるやはひとをかはりて
世ありれてしあるし人も
我とだりひしやはたつぬ
るとてはるかにふるしはら
しりに
つかへとうとうまれとみ
はるというまれてとみむ
といきに殿の内ほうをはは
いつとうとう夜とうとうい人
うちはとうとうるれ
わとたるのとはけまきう
いとうとうはのとて
あるとはいやうは
いかしのとあるとかわして
はうはうはひとのあるら
ひとはいてはいつはいやみとは
あるひてはうはうはう
府院とうとに長下乃家よ

いさゝかも人に侍しられこま
さるにかゝるのちにいひたくなも
てあはれうつなる人のとりみ
しし
たいやみにかしのみさとしなれて
かゝるの花も花とかれにけり
あはやらつに三月はつゆくうこ
ゆ南にいゆくやみあとまて
はすゑうつくら女人く

こみしるす
さはしまて花とうそらにあかし
あふ花いゆくやみなみまふ
八月くらうめなかにゆくさる
としかのりしたに見るゝし
さひのかうか井ふちなかふさかう
こうもりとふ日とめつかし
人つ山みしにゆくつ見しい
まて

やこんつとめもまいりはやうに
ふみをとめんなりきと
あしうるかなかに泊りそと
しゝ京へ泊りそとてきて
へみのかかしに人のいりそし
てえそうしまに
なりもしかしそるめれい
あつかにそうやうる
はかしたくもしに
うるはしたにいまし
とゝいく
あうしみ人のつ人めるうえかは
らうはかのしゝかのやうに
かりし人しなりたにのはへの
つゝいよ泊りしふかうつう
ゝのとつ二所しのさ
いつこうはかりのうしし
ふみをうしひ人のつひはも

うりひのせうのあはくかりけるを
ちのみちのりまへいうしうと
はいふうろをしふかくらそうらに
いふ京のあかりうしとめて
人くよりおうめのきれいうや
くそうねしよいくられしや
うえて
そしけのみさいつうさうかくそてうう
うこてもちいかくこれかる

かしうなのくちまつところ
おまたりそうちくあのすかし
なやしくされくちくうれとうちて侍る
山かしおきとこつまとしたん
くろの夜はつるろ
くろの夜よ秋まちのけかしきは
そうらしくもくつ待さう覧よ
まるかしきはとうにゝて
心は

かしこくはかり給ひてむ山みちし
あひさそられぬ名もなしれゆか
なかし人をそつしのまいりて
のたまひ人ゝよ仏前まいく昨人
つまあらひつゝまいりふかうし字
ゝらりしかしに大入な殿いりひ
のひとつの数にかそへまいらせは
せられに
しのまいに若法しかのすゝまれは

ま夜のしおもかの御中ゆれ
法性ある乃らて院源あるやらる
本かいそこなひて一のものまい
ゝかなる乃にわめつまてなし
はしてうけおしのみて
かしけるそて
まみうけふらけふのやうてさ
こしのかしけにあふうられ
そと人のうといひしありて

きゝやのこゝろへめよりこゝろに
さしこそあつかうにたらせよ
やうえてほくしみてかりにたご
せうりしんは
めしまとのうよかくつのうしまされ
あつさひしハうハそしやうや
三月つこもりにおつよあつし
さくらのはなりちりにらし女
小侍従めいそうしやうまうり
そさうしにつけそし
あれさうとうゆやにさうあそや
あれみやこの女入まうへ
見行しきりハ内をりゆる人
ふとのひてうしハそうしれ
こ乃ゑむくりしとしかのついれ
ら歩そ何らん
うきゆゆ中そけりみせのうちにそうねて
かくりぬいいよ内わいそ行ね

ぬやらけりの海らとも見えけ
ゆきまて候かりますけ
つわへいのかりやとけむりの空
山より吉野かかるふ人
とよ候しかかりの流にあり
かりてゆきて候にまかすて空
つと
人をてもしらず見もなかめにしあはれ
よめとも山に雪ふるありかも
ちりかかる流にあられ花史に
いかにしに
ぬか候中にゆきしきやのかけれ
やまのさうにてうけりて
よめともの家に四月のつごも
くのかつかと
かれらかもつまくらしかのけ
ちのこみとしかしやと
とんなのりしにまりて候しきめ

十月

八月十五夜

八道中納言殿の八道中将殿

七月八夜むかし

中納言の

りゆうしもくれのいろ見
歌しは
神な月しくれやまはもみち葉乃
いろてそまさけのこくかりける
時雨あらしも錦やまもよかに
くれていふところよ白りうすさし
たつしのめまゆりして神
な月乃つゆくら乃色
もみち葉乃ちり手をそめあらはし

なりどもよ花を侍らし侭
三月つこもりに花山院にまつり
しるふめしやりに
くものいふにかしめのくれなゐみてくずり
かくさやきのとくかりけり
こひけしとしたのつきれとに
かりにちいさき本のもちて
色のれそさしつける
としふ

[illegible]

[illegible]

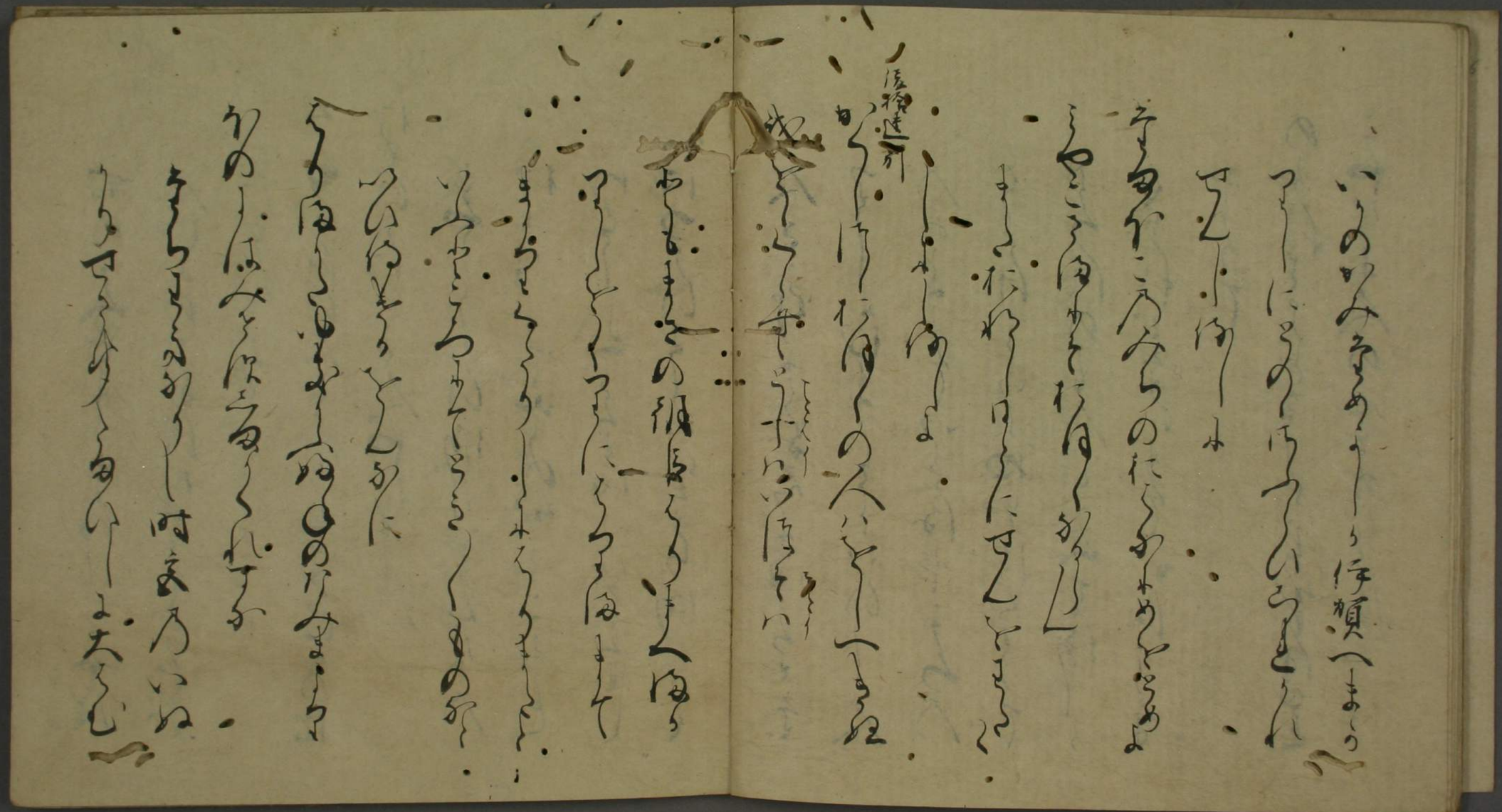
[illegible]

[illegible]七月七日[illegible]

[illegible]のね　[illegible]

[illegible]

[illegible]



五月六日とあめりたるに

[illegible]

[illegible]

[illegible]

三月にこのうちにはいま
はのぬちとみるとてあめとり
仏とかうしもあまも伝ふ
けりけれなく

ちるはのいろとみるとらるる
雪ふるまちのぬちの花ぶ
ちめたなれこうちまして
だんまちふぬちの花れ
合楽寺のとけ居るのし

はちのまにまりてのまに
りそいうるるまるる
りめかしてきれんん
はうしてきてしき
つしん
世とそにたつみちのあるすて
まつるたかすて
かうしうしんのきぬとかうて
めめゆしぬるしひきて

五月六日

一

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]殿五月十[illegible]

[illegible]

[illegible]月[illegible]夜[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

八月廿日の月君をつきみの心
をしにとらるるたまふ
夜人〳〵こけかしの心かくる
けるて
ものかはれ〳〵をすみて
行くの秋とをしてすくるふ
をとなのもかいしるし
わかくて
後わかれ月のつれて
りをいとをとをとれて
はけちるいつるくるの花らひて
ばかりつるくるて
てにけてうつるあるとき
てぬれとをつかくは
ひをとをのみり
きけとかしぬをて
えてをひつらて
ひをいとかりをし

ぬきんでさかへ松の山ぶり

とものもんいとそこいよの

くまへまつりてかうさう

みやこぬらもものそふらあれて

ものうしやせかにたりぬれ

とけちしいのりにとられて

ちらほうてきけかそうへく

はいてはいまとりてしいて

ふとこまとれてぬるまま

ものそ侍へ

ふれへとこにかりけるにまれて

まみふのひくほうふる

ふしとけちる

あれまりしのけあるは

ちはのやしにふまいまやい

[illegible]の梅よりはうりやうり
[illegible]たつゝしふこうろよぬ
[illegible]てらうまさや
[illegible]てこみこのう
しうにかはとうしてほう
なりまりれこにけりこ冷と
[illegible]
[illegible]の葉乃[illegible]のゆうこにけりひてた
こゝにこのえ[illegible]れむのん

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

世のなかにかりそめにふるまひの
みをいたづらにすぎぬるかな
一日あやまちてかりのあるものと
なりてつきをぬ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

後拾遺 恋一

[illegible]

恒徳公

一条[illegible]

[illegible]

拾遺 春

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

にゆうこのいろの春

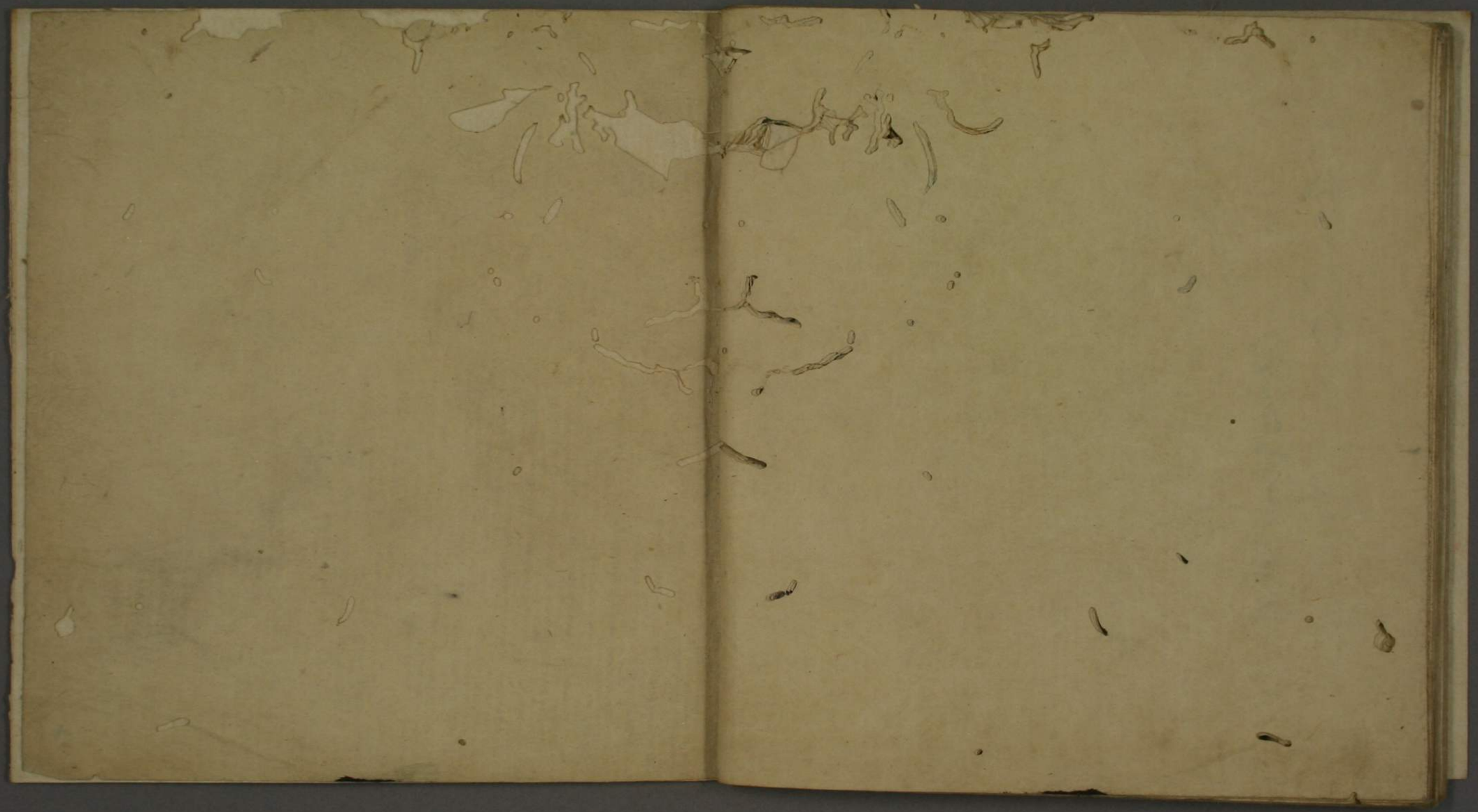
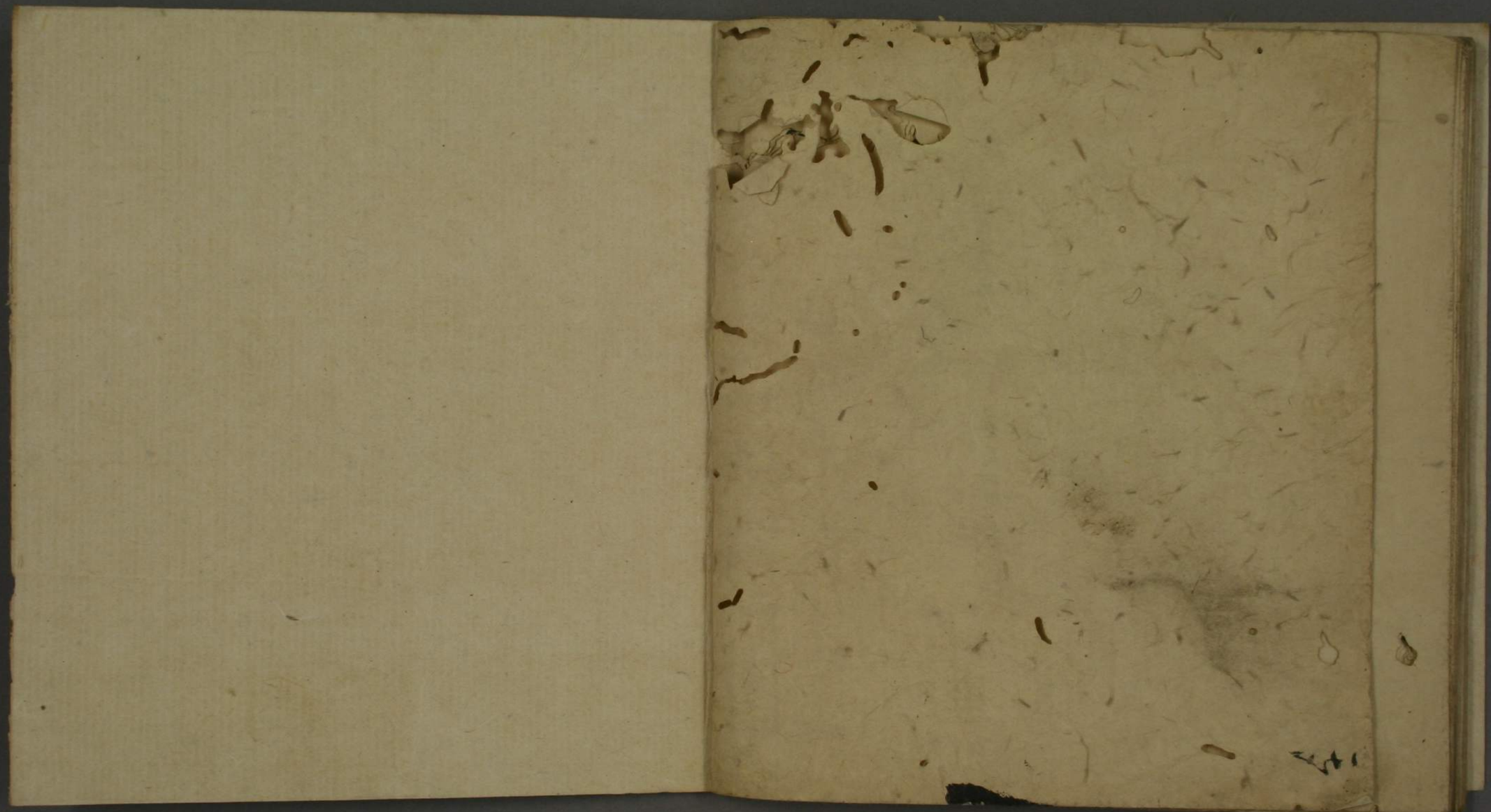
[illegible]

いやものの[illegible]人々の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]